

1. 教科指導

		自己評価		評価サイクルの検証	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者評価		
【1 教科指導】 授業、学習指導の充実と生徒の学力向上支援体制を確立する。	(全校レベル) 主体的な学習意欲の育成を図り、基礎学力を定着させる。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A	評価サイクルの検証	
	(下位組織レベル)			(所見)		
	1) 教育課程の充実。	1) ①各教科・科目の単位数がバランスよくとれている教育課程になっているかを検討する。 ②選択科目の多様化を図り、普通科では50科目以上を開設する。	1) ①教育課程検討委員会を年間5回行い、各科主任等を交え教育課程の検討を行った。 ②学校設定科目、を含め普通科で71科目を設定した。	評価指標関連については、概ね達成できた。 教職員の協力体制ができており、各年次・教科・課・係を中心に、全教職員の理解と協力による活動ができた。	1) ①大学入試制度の変更も見据えた検討を行った。今後も、入試制度変更を視野に入れ、教育課程の検討・変更を行う必要があると思われる。	1) 入試制度の変更等に柔軟に対応できる教育課程を考える。 理数科で多様な科目選択が可能な教育課程を検討する。
	2) 授業計画の充実。	2) シラバス(授業計画)の活用計画を立案し、各学期全体の指導で2回以上活用する。	2) 1・2年次の年次集会やHRでの科目選択・進路指導等で複数回活用した。		2) シラバスのさらに有効な活用方法・時期について検討が必要と思われる。	2) 新学習指導要領に対応した教育課程やシラバスの検討が必要である。
	3) 授業評価の導入による授業改善、教員の指導力強化。	3) ①授業評価を1学期・3学期それぞれ1回実施し、学力向上のための教科会も連動して実施する。 ②他の教員の授業を10回以上参観する。 ③予備校が主催する入試研究会や授業力向上のための研修に参加する。	3) ①1学期及び3学期にそれぞれ1回、授業評価を行った。 ②1学期及び2学期にそれぞれ5回以上の授業参観と参観記録を図った。 ③駿台難関大入試研究会に2・3年次英数国教科担任、ベネッセ・河合塾入試研究会に3年次担任、低学年進路研究会に1・2年次担任が参加した。		3) ①前年度、1学期、3学期の授業評価を比較検証できるシステムの構築が必要と思われる。 ②同一教科内の授業参観に留まる場合が多かったが、他教科の授業から学ぶことも多いと思われる。	3) 優れた授業から、全教員で手法や授業展開を学ぶ機会を考える。
	4) 基礎・基本を中心とした放課後の学習指導。	4) 成績不振者・科目数を1学期・2学期・年度末と順次減少させる。	4) 1学期・2学期・年度末の各年次の成績不振(35点未満)者・科目数については2学期に増加したが、年度末には減少させることができた。		4) 年度内の比較だけでなく、年次をまたいで追跡した比較検討が必要と思われる。	4) 2学期の成績の落ち込みを防ぐために、集会や行事等、生徒の意識作りの機会を考える。
	5) 放課後の主体的な学習活動。	5) 毎週月～金の放課後、社会科教室などの特別教室を学習室として開放する。	5) 毎週月～金の放課後、社会科教室などの特別教室を学習室として開放した。		5) 放課後の教室利用の部活動との調整が必要と思われる。	
6) 土曜日の学習活動。	6) 土曜日午前中の補習を2学期・3学期で13回実施する。	6) 2学期・3学期で1・2年次生に対し13回の土曜日補習を実施した。(昨年度15回)	6) 土曜日補習の校舎施設・最終確認についてルール作りが必要と思われる。			
7) 長期休業中の学習。	7) ①1・2年次生：長期休業中の全員補習出席率 90%以上。 ②3年次生：希望選択の補習出席率 90%以上。 ③進学希望者による早朝マークトレーニングについて、必要な科目ごとの参加率80%以上。	7) ①1・2年次生全員補習(夏冬季出席率の平均) 1年次夏冬季補習 94.3%(昨年度89.0%) 2年次夏冬季補習 91.7%(同 85.2%) ②3年次希望補習 90.2%(同 89.0%) ③センター試験受験予定者194名による早朝マークトレーニングを実施参加率 67%(各教科3回(10～11月)の平均)	7) 放課後学習や土曜日補習の質的、量的な充実。放課後学習での教員の組織的配置や土曜補習への部活動部員参加の保証。			

8) 家庭学習の確保・充実。	8) 単元テストCOMPASSの合格率を90%以上。	8) COMPASS合格率 (50点満点中 30点以上が合格) 1年次全体83% (国語87%, 数学80%, 英語80%) 2年次全体70% (国語63%, 数学71%, 英語76%)	8) 単元テストの重要性を生徒にもっと理解させる。また出題についても難易度に配慮する。	
9) 自己管理能力の育成。	9) 学習・生活記録を毎日記入させることで、生徒自身で日々の生活の中に学習習慣が定着できるよう、支援する。	9) 学習・生活記録の毎日記入・提出により、生徒自身が自らの生活を見直す機会とし、学習習慣の定着につなげることができた。	9) 学習・生活記録の毎日の確認作業が、教員の負担増になっている。また、3年間の次年度へのデータの引継ぎが課題と思われる。	9) 学習・生活記録のデータを容易に電算化する方法を検討する。
10) 教育活動の広報による更なる充実発展。	10) ①『HP』の更新を年間50回以上行う。 ②『PTA会報』を年間1回発行する。	10) ①『HP』の更新回数は12月末まで62回である。 ②『PTA会報』を1回発行した。	10) 情報担当教員が更新作業を行っており、担当教員の負担が大きい。更新を行う教員を、HPの内容に応じて複数配置し、更新作業を分散する必要があると思われる。	
活動計画		活動計画の実施状況		学校関係者評価
1) 弾力的な教育課程の編成を行う。		1) ①文理の進路希望に応じた理科・社会の単位数の見直しを図った。また、入試科目の変更に対応し、地歴・公民の選択見直しを図った。 ②教育課程の検討と連動し、開設科目について検討し、学校設定科目の増設を含め普通科で71科目を設定した。		1) 普通科の選択科目は非常に多く設定されているのはよい。ただ、理数科の文転者にも多様な選択科目を準備すべきである。
2) シラバスを活用することにより、ガイダンス機能の充実と科目選択時における利便性の向上を図る。		2) 教育課程の変更により、シラバス(授業計画)の更新を行った。1年次の入学時オリエンテーションでの履修の説明や、1・2年次の年次集会やHRでの科目選択指導・進路指導等で活用した。		10) HPを、もっと外部に対する情報提供の道具として活用すべき。様々な教育活動を、効果的に広報できる手段である。
3) ①授業評価の結果を分析し、各自が授業改善に努めるとともに、教科会で検討し、学力向上に努める。 ②相互授業参観月間で他の教員の授業を参観することにより、授業改善を図る。 ③授業力向上のための研修に参加する。		3) ①1学期及び3学期にすべての授業について授業評価を行った。特に3学期については、マークリーダーを用いデータを電算化し集計・分析を行い、各教科・教員全体の情報共有・検討により学力向上を図った。 ②1学期及び2学期にそれぞれ10日間の相互授業参観期間を設け、各学期5回以上の授業参観と参観記録を図った。 ③中四国の教科連絡協議会に3回参加した。特に英語についてはさらに不定期に研修を重ねた。		検証結果が、次年度の行動に繋がらなければ評価サイクルの意味がないので、しっかりと次年度に引き継いで欲しい。 評価のための評価になってしまつては、膨大な時間と労力の無駄である。もっと、ポイントを絞った簡素な形にならないか。簡素化する方が、認識も徹底するので、効果的である。
4) 定期考査前の放課後に基礎・基本を中心とした補習を実施し、成績不振者・科目数の減少を図る。		4) 定期考査前に、各年次で基礎基本を中心とした補習を各教科に依頼し行った。事前に補習日程を作成し、教室掲示により生徒に周知を図った。		

		<p>5) 社会科教室などの特別教室を開放しての放課後学習を実施する。</p> <p>6) 土曜日において、英数国から2教科選択してテーマを絞った効果的な補習を実施する。</p> <p>7) 補習等の出席率を上げ、学力向上を図る。</p> <p>8) 単元テストCOMPASSを実施し、授業と家庭学習の連携を図る。</p> <p>9) 学習・生活記録を活用することで、生徒の自己管理能力を育成する。</p> <p>10) 『HP』による広報活動の充実、および『PTA会報』を発行する。</p>	<p>5) 毎週月～金の放課後、各年次のHR教室に近い、社会科教室や地学室・講義室を学習室として開放し、落ち着いた学習環境を提供した。 利用生徒の満足度は92%、保護者の満足度は96%である。</p> <p>6) 9月12日(土)より1・2年次生の希望者209名(昨年度234名)に対し、英数国から2教科を選択させ13回の補習を実施した。(昨年度15回) 補習の内容は、英数国各教科内で検討し、学習進度や実施時期に合わせた内容とした。 土曜日補習を活用している生徒の満足度は84%、保護者の満足度は94%である。</p> <p>7) 土曜補習出席率 全13回の平均 1年次 90.6%、2年次 70.9% (ただし、一部試合等で公欠生徒を欠席に含む)</p> <p>8) 例年と比較して定期考査の欠点者が大幅に減少しており、単元テストの効果が表れている。また、模擬試験においても成績の落ち込みが少なく、特に2年次においては成績の回復が見られた。</p> <p>9) 学習・生活記録の毎日の記入・提出により、自分の生活を振り返り、自らを律する機会とすることができた。また、学習・生活状況の把握でき、生徒の学習習慣・生活習慣についての指導に生かした。特に、定期考査前などには学習時間を電算化し比較・検討を行ない指導に生かした。</p> <p>10) ①学校行事、部活動、年次通信等のリアルタイムな掲載によりHPアクセス回数も前年度に比べ大きく増加している。 ②『PTA会報』を1回発行し、広報を行った。</p>			
--	--	--	---	--	--	--

2. 生徒指導

		自己評価		評価サイクルの検証	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者評価	
【2 生活指導】 規範意識の一層の向上（ルールを守る心、モラルやマナーを守る心の育成）に努める。	（全校レベル） I) 基本的生活習慣の確立を図る。 （正しく制服を着用させる。） II) 一人ひとりの生徒理解と個性の伸長を図る。 III) 生命の尊重と人権意識の涵養を図る。 （下位組織レベル） 1) 頭髪・服装検査、遅刻指導の充実。	評価指標 1) ①常時指導を重視しながら全校集会や年次集会を通じて、頭髪服装検査を実施するとともに、基本的生活習慣の定着を推進する。 ②毎週末、遅刻指導を実施する。	評価指標の達成度 1) ①違反を繰り返す女子生徒に対する指導が十分にできなかった。 ②毎週末、個別指導をすることにより遅刻者を減少させることに繋がった。	総合評価 （評定） A （所見） 評価指標関連については概ね達成できた。 教職員の協力体制により全員面接など積極的生徒指導が展開できた。 服装指導は課題として次年度も取り組んでいきたい。	評価サイクルの検証 1) 毎月の全校集会で実施している頭髪・服装指導が身だしなみを整え、生活面での気持ちの引き締めにつながるようしていきたい。違反者の指導が形だけにならないよう個別指導の強化や保護者と連携した指導が必要がある。 毎週末の遅刻者指導は遅刻以外での生徒の支援に繋がっている。
	2) 個人面談の充実。	2) ①電話連絡・文書連絡、必要に応じて家庭訪問を実施するなど保護者との連携を図る。 ②面接週間を年間4回、各年次で全員面接を実施する。三者面談を年間1回実施する。 ③いじめ・迷惑調査を実施する。	2) ①長期休業前の文書連絡を3回、年次通信を8回発行し連携を図った。 ②面接週間を4回、三者面談を1回、1・3年次生を対象に全員面接を実施し生徒理解や積極的生徒指導に繋がった。 ③1・2年次生を対象に学校生活に関するアンケートを実施した。		2) 各年次通信は富西の教育活動がよくわかり、学校と家庭の連携に役立っているとの評価が高い。年次通信を通して生徒指導への協力を呼びかけてはどうか。 面接計画は生徒理解や生徒の支援に繋がった。時間的に余裕が無いので特設して実施したほうがよい。
	3) 交通安全指導の充実。	3) ①交通マナーアップ活動（校門前のあいさつ運動・駐輪場での施錠の呼びかけ）を実施する。 ②自転車・原付自転車の整備点検を実施し整備不良車は再点検を実施する。 ③毎月、学校安全の日に街頭指導を実施する。 ④原付免許証取得者を対象に実技講習会を実施する。	3) ①生徒会交通マナーアップクラブが中心となり校門前のあいさつ運動を実施した。 ②5月、10月に自転車・原付自転車の整備点検を実施した。 ③毎月、学校安全の日に街頭指導を実施した。 ④原付免許証取得者を対象に富岡自動車学校で実技講習会を実施した。本年度も重大事故は発生しなかった。		2) 年間を通しての面接週間・特設した各年次面接を実施することにより積極的生徒指導を推進し問題行動やいじめなどの未然防止に努めていく。 いじめ問題について、いじめはあるとの認識を持ち「いじめは絶対に許されるものでない」との意識を持ち、生徒一人が悩みを抱え込まずに学校教育活動全体を通じて取り組む。命の大切さを知らせ、人権意識を基盤とした仲間づくりや人権意識の涵養に努める。
	4) 積極的・予防的生徒指導の展開。	4) ①年次会での情報交換を充実する。 ②携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ③長期休業中に関係機関と連携し、合同街頭指導を実施する。 ④阿南寮・下宿訪問を実施する。	4) ①年次会で研修や情報交換することにより個々の生徒の自己実現を支援できた。 ②1年次生を対象に携帯電話安全教室を開催し携帯電話の危険性について学習した。 ③夏祭りで関係機関と合同で市内の合同巡視を実施した。 ④阿南寮を訪問し連携を深めた。下宿訪問をすることにより生徒理解と支援に繋げる事ができた。		

		<p>活動計画</p> <p>1) 頭髪・服装違反, 遅刻, 特別指導の件数を減少させる。</p> <p>2) ①保護者と連携した生徒指導を推進する。 ②面接週間を設定し, 三者面談を実施する。</p> <p>3) 交通事故防止に努める。</p> <p>4) ①年次会を充実させる。 ②携帯電話安全教室や薬物乱用防止教室など, 生活安全に関わる学校行事を実施する。</p> <p>③関係機関との連携を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) 全校集会, 年次集会時に高校生活のあり方について講話するとともに頭髪・服装検査を実施した。 毎週末に個別に遅刻指導を実施した。</p> <p>2) ①長期休業前の文書連絡を3回, 年次通信を8回発行した。 ②面接週間を4回, 三者面談を1回</p> <p>③3年次全員面接を6月, 1年次は11月に実施した。2年次は修学旅行延期のため実施できなかった。</p> <p>3) 学校安全の日に街頭通学指導を実施した。 生徒会が中心となり交通マナーアップ活動をおしてあいさつ運動に取り組んだ。</p> <p>4) ①各年次で研修・情報交換を実施した。 ②防災訓練, AED講習会, 携帯電話安全教室, 交通安全実技講習会を実施した。ただし, 薬物乱用防止教室については, 新型インフルエンザの感染の予防から, 年次集会での実施は中止し, 各HRで行った。 ③合同巡視, 生指協連絡協議会を開催した。</p>		<p>3) 生徒会を中心とした交通マナーアップ活動については, もう少し充実した活動であってほしい。</p> <p>原付免許証取得者を対象とした富岡自動車学校での実技講習会は生徒の交通安全意識の向上に繋がり事故防止に効果があった。</p> <p>4) 関係機関との連携を図りさらに充実した行事計画を進める必要がある。</p>	<p>3) 関係機関と連携を図り交通事故防止教育を進めていく。学校安全の日, 交通安全週間, 街頭通学指導を継続し事故防止に努める。生徒会を中心とした交通マナーアップ活動を中心として生徒の自主的な活動を支援していく。</p>
				<p>学校関係者評価</p> <p>卒業式に参列して, 大変感激した。よく指導が行き届いている。</p> <p>他校で起こったテレビや新聞等で報道されるような大きな事件が起こると, 普段の努力が一瞬にして無に帰してしまいかねない。</p> <p>普段からの, 人間形成に重きをおいた教育を徹底すべきである。</p>		

3. 人権・特別支援教育

		自己評価		評価サイクルの検証	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者評価		
【3 人権・特別支援教育】	(全校レベル) 人権問題HR活動を充実させるとともに、学校生活のすべての場面で、相手の立場になって考え、行動できる生徒を育成する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A'	評価サイクルの検証	
	(下位組織レベル) 1) 各クラスの人権問題HR活動の活性化。	1) 各クラスの人権問題HR活動の満足度の向上。	1) 人権問題HR活動を、各年次7回実施した。	(所見) 人権問題解決と啓発に向けて様々な活動ができた。	1) 人権教育についての満足度は、生徒個々に判断基準がまちまちである。 人権問題HR活動前の教職員人権問題研修会の中に年次会を設け、事前検討会として活用できた。	1) 人権教育についての満足度を客観的に図ることのできる仕組みを考えていく必要がある。
	2) 人権啓発紙「じんけん富西」の充実。	2) 「じんけん富西」の内容の充実と年間5回の発行。	2) 「じんけん富西」は表裏印刷して年間5回発行し、人権委員会の意見や感想および教職員の意見を多く掲載できるようにした。	HR活動の満足度等を見ると、まだまだ今後改善の必要を感じる。	2) 生徒の人権問題HR活動への参加の方法は、感想や意見の発表という形のみであったが、参加人数や提出数が増加した。3年次については、人権問題意識調査を2年連続で実施した。	2) 生徒人権委員が「じんけん富西」の発行に携われるように工夫する。
	3) 人権問題講演会、映画会、全校集会等、学校行事の中での啓発。	3) ①富西人権の日を月1回実施。 ②人権問題講演会、映画会等の満足と事後指導の充実。	3) 正副担任のメッセージや人権講演会など、年間を通して行事の企画運営を行った。		3)	3)
	4) 生徒人権委員会、社会問題研究部など生徒の自主活動の育成。	4) 人権委員会委員長や社会問題研究部の啓発活動の実施	4) 全校集会での人権委員長による啓発活動、富西祭に向けての展示や社会問題研究部や人権委員会による自主研修を行った(11/21那賀川道の駅での「身元調査お断り」ワッペン運動、12/20中高生による人権交流集会に参加)。また、JRC部が児童福祉施設、老人ホーム、障がい者福祉施設等でボランティア活動を行った。		①月一回の「富西人権の日」に関連行事を実施し、人権について考える時間や機会を持つことができた。 ②生徒の感想や意見を具体的に詳しく理解することができた。	①「富西人権の日」の関連行事についてHR等で、生徒がテーマや内容を理解する差がないような説明をしていく。 ②講演会・映画会等は生徒の関心・理解・共感が得られる大きな行事であり、講師や映画の選定にさらなる研究や工夫が必要である。
5) 教職員人権教育研修の推進。 6) 学校、保護者、地域社会との連携。	5・6) 教職員の校外における研修会等への参加と校内教職員研修での報告会を年間2回実施。	5) 人権教育課から各年次に研修会参加を依頼した。また校内教職員研修では卒業生の人権アンケートの結果報告、新入生の人権問題意識調査の分析、各種研修会の参加報告等について研修を行った。 6) PTA人権教育推進部研修(6/4)、親睦バレーボール大会(8/23)、那賀川道の駅での「身元調査お断り」ワッペン運動(11/21)、阿南市人権教育研究大会(2/6)に参加した。	特別な支援を必要とする生徒への対応をすることができた。	4) 全校集会という場で、生徒人権委員長から全生徒に直接訴えることで啓発の効果は大きい。 5・6) 校外での人権問題研修会の開催の時期により、他の校務と重なり参加できなかったという前年度の意見を受け、各年次であらかじめ研修会の予定に合わせ、研修に参加する人の予定表を組み、計画的に研修会に参加することができた。	4) 社会問題研究部と生徒人権委員会の、より一層の連携が必要である。 5・6) 校務の多忙さを周囲が補う形で、多くの教職員が校外での人権問題研修会への参加できるように工夫するとともに、研修会の予定と学校行事とのすり合わせを早い段階でできるように努力する。	

7) 学校生活上、問題を抱え、支障をきたしている生徒・保護者に対する支援。

- 7) ①教育相談職員研修会の実施。(年3回)
 ②外部講師による特別支援教育についての研修会の実施。(年1回以上)
 ③特別支援が必要な生徒に対して、特別支援チームを編成しての取り組み。
 ④校外関係諸団体による研修会への参加。

- 7) ①教育相談職員研修会を3回実施した。
 ②外部講師による特別支援教育についての職員研修会を1回実施した。
 ③特別支援が必要な3名の生徒に対して、特別支援チームを編成して取り組んだ。
 ④校外関係機関による研修会へ4回参加した。

活動計画

1) 各クラスの人権問題HR活動を各年次7時間設定する。HR活動については事前研修会を実施する。

活動計画の実施状況

1) グループ学習や講義形式、ビデオ視聴、ワークシート使用など、主題やクラスの状況に応じて様々な形でのHR活動が実施できた。

2) 「じんけん富西」に人権委員会の意見を反映させる。

2) 「じんけん富西」を年間5回発行し、毎回両面を使用し、人権委員会の意見や感想および教職員の意見を掲載した。

3) 富西人権の日(人権問題に関する行事)の企画、映画会・講演会のHR活動で感想文の作成とアンケートを実施する。

3) ①富西人権の日を毎月1回実施した。
 ②人権問題講演会、映画会の後、感想文作成や話し合いをHR活動で行った。

4) 全校集会での人権委員長による啓発活動、富西祭に向けての展示や社会問題研究部による自主研修を行う。

4) 7月の全校集会で生徒人権委員長から啓発のスピーチをした。

5) 校外の研修会等への積極的な参加と校内教職員研修会で人権意識について教職員間の共通理解を図る。

5) 人権教育課から各年次に研修会参加を依頼し、校内教職員研修を年間4回実施し、その中で校外の研修会の参加報告を4回実施した。さらに校内教職員人権問題研修会の後で年次会を設け、次回のHR活動指導案を検討する時間を確保した。

6) PTA人権教育推進部での研修、親睦バレーボール大会へ参加し、親睦を深める。

6) 親睦バレーボール大会(8/23)に参加し、親睦を深めることができた。

- 7) ①特別支援教育研修の推進。
 ②発達障害への理解と校内体制の整備。
 ③発達障害のある生徒・保護者への支援と校外関係諸団体との連携強化。

7) 校内研修会を4回実施し、発達障害について理解を深め、校内体制の充実につとめた。また、必要に応じて精神保健センター、総合教育センターの指導をいただき、問題解決のために努力した。

7) 特別な支援を必要とする生徒について全職員が共通理解できるように研修会をもつことができた。また外部講師による研修会では、生徒と面談をする際のスキルを習得することができた。

7) 在籍する生徒の多様性に合った対応ができるように体制を整える努力をする。

学校関係者評価

全人的教育や個性の尊重は、生徒の多様な進路の実現にも良い影響を及ぼしている。

コーチングの資格を取るなど、具体的な生徒とのコミュニケーションのスキルアップも必要ではないか。

4. 進路指導

		自己評価		評価サイクルの検証	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者評価		
【4 進路指導】	(全校レベル) I)進路相談の充実を図る。 II)キャリア教育(職業観育成教育)を推進する。 III)本校の進路指導を保護者・生徒に広報し、理解を促す。 IV)総合的な学習の時間の充実。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A	評価サイクルの検証	
	(下位組織レベル) 1) 個人面談の充実。	1) 全年次で個人面談を年間5回実施する。	1) 三者面談を含めた個人面談を5回実施し、1・2年次は志望校を含めた進路先の絞り込みについて助言を行うとともに保護者への広報及び理解を促した。3年次は、年間を通して面談を実施することで、全ての生徒が納得のいくかたちで進路を決定していくことができた。	(所見) 評価指標については、おおむね達成できた。教職員の協力ができており、各年次・教科・課・係を中心に、全教職員の理解と協力による活動ができた。	2) ①進路ガイダンスは、生徒にはおおむね好評である。 ②オープンキャンパスへの参加率は2年間で大幅に増加し全ての年次について目標に近い数値である。	2) ③低学年次に対する啓発活動を進路のHR活動で行う。
	2) 生徒個々の職業観育成を目指し、外部と連携した支援を推進する。	2) ①学部系統別進路ガイダンス(1・2年次生)を実施する。 ②夏季休業中のオープンキャンパスへの参加率1年次40%、2年次60%、3年次80%以上を目指す。	2) ①徳島大学・鳴門教育大学等の講師を招いて学科・コース単位で27講座を展開した。 ②徳島大学176名、鳴門教育大学27名をはじめ、夏季休業中及び秋季連休中のオープンキャンパスへの参加率1年次35%、2年次56%、3年次76%		2・3) 各年次会で進路設計についてのHR活動のテーマや内容について、資料や入試情報等を集めるなど昨年度と比べて改善された。	2・3) 年次会で扱う内容について勉強会を持つ。 進路問題についてのHR活動を生徒にとって魅力的な内容にするため、創意工夫が必要である。
	3) 年次団等による相談体制・面談プログラム整備。	3) 進路設計についてのHR活動を各学期2回実施する。	3) 各学期2回の進路HR活動のほか、各年次集会で進路に対する意識の高揚を図った。		4) ①進路講演会も生徒・保護者とも好評(平均80%が満足)。特に3年次の進路別集会は、専門学校・就職希望生にきめ細かいガイダンスが実施できた。 ②PTA支部会で進路課の説明を加えたことで保護者の参加が増えた。 ・3年次の学年PTAは本校職員による学校独自の内容に変え休日に実施したことで参加率が大幅に増加している。 ・1年次の翌年の履修科目選択の説明会も保護者の参加人数が大幅に増加した。 ・センター試験後の志望校判定の検索を自分で納得するまでできる点は生徒・保護者ともに好評であった。	4) ①今後も生徒の進路に応じた講演会・説明会を実施する。 保護者部会はできるだけ参加しやすい時間に設定する。 ②PTA活動で、さらに多くの支部会の開催を期待する。支部会には必ず進路課員が参加し、説明したい。
	4) 進路指導の系統的展開。	4) ①各年次で進路講演会を年間2回実施する。 (生徒対象1回、保護者対象1回) ②PTA支部会における学校説明会に積極的に参加する。	4) 1年次は2月に、3年次は5月に駿台予備学校の西昭広氏を招いて進路講演会を実施し、2年次は大阪教育大の近藤秀樹氏を招いて「推薦入試やAO入試等における小論文入試の実態」というテーマで講演を実施。			
	5) キャリア教育としての総合的な学習の研修・検証・改善。 6) 学校教育についての情報共有・交換を促進。	5) 修学旅行2日目にグループごとのテーマに沿った企業・大学訪問や職業体験などを実施する。	5) 修学旅行先が北海道に変更になった為、北海道大学をはじめ6箇所を訪問し、研修を行った。			
	7) 総合的な学習を通して自己のあり方生き方や進路についての自覚を高める。	7) 総合学習テーマ「社会探究」において ①1年次では課題を発見し、各自の研究テーマを見つける。 ②2年次では研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間2回発表会を実施する。 ③3年次ではディベートと小論文を年間6回実施し、表現力強化を目指す。	7) ①1年次では所属する講座を決めて、自主研究のテーマと修学旅行の研修先を決定した。 ②2年次では自主研究発表を、9月に実施し、自己の進路決定に役立てるため、進路ノートを使用した。 ③3年次ではディベートと小論文を実施したが、例年以上に小論文指導に力を入れ進路決定に役立てた。			

活動計画	活動計画の実施状況
1) 模試返却時は個別に返却し、データの 見方や各自の勉強のポイントを指導す る。	1) C A I 教室を利用し、模擬試験による 合格判定システムの使い方を学ぶこと で、志望校及び進路先までの具体的な 目標値を設定させた。
2) 生徒実態に応じて適時、個人面接を行 い、外部機関等とも連携し生徒・保護 者を支援する。	2) 模試の成績を進路指導課が中心となっ て分析し、それをもとに各年次会及び 教科会で課題を見つけ全ての教員がそ の対策に取り組んだ。
3) ①進路設計についてのテーマに沿った HR活動を年次で実施する。 ②各年次でテーマを決定し、進路指導 を実施する。 1年次：望ましい職業観 2年次：学部学科の研究 3年次：受験までのスケジュール、 志望理由、面接、教科別受 験対策など	3) 各年次での各学期2回の進路HR活動 とともに進路講演会や進路ガイダンス を通して、望ましい職業観の確立や学 部学科の研究を深めることができた。
4) ①生徒・保護者対象の進路講演会を実 施し、最新の進路情報を提供する。 ②C A I 教室の利用を促す。	4) ①生徒対象の進路講演会とともに保護 者対象の進路説明会で最新の進路情 報を詳細に進路指導主事が説明した。 また県外大学の視察研修を実施する ことで、各大学の現状把握に繋がった。 ②C A I 教室を研修の下調べや研究発 表・ディベートの資料集めの為に、 授業時間はもちろん放課後も頻繁に 使用した。
5) 進路設計への総合学習の効果を検証す る。	5) 自己の関心のある講座に所属して研究 を行うことで進路決定に役立っている。 更に、進路ノートの活用によって、自 己の適性或学部学科と職業との関連を 深く知ることができた。
6) 総合学習の「富西プログラム」を生か して自己管理能力を育成する。	6) 総合学習における自主研究やディべ ートと小論文などは自己管理能力育成に 繋がり進路決定に十分に役立てるこ うだった。

5) 特に、課題研究では、生徒の興味・関心を拡大し、生徒の漠然とした進路設計に具体性をもたらすことができた。しかし、多くの生徒が課題研究に修学旅行での研修内容を取り入れ活動できたが、修学旅行先を変更したこともあり、生徒によっては十分な研修への事前学習が行えず満足する成果が得られなかった。課題研究での情報収集活動の意義等の確認と支援強化が必要である。

5) 自主的・自発的な生徒活動を主体とする総合的な学習ではあるが、活動手順や到達目標をより明確に示すことで活動をより充実・活性化させる必要がある。そのためには、課題研究活動を幾つかのセクションに分け、それぞれの目標・具体的な手順を示し、その都度確認・検証できるプログラムに修正が必要である。

学校関係者評価

部活動や生徒会活動など、生徒の実績や個性を生かして、推薦入試で多くの生徒が進路を確保できているのは素晴らしい。

短期留学や大学の出前授業等を活用し、生徒の進路に対するサポートの幅を広げることも有効である。

出口に対する戦略はいいが、入り口の生徒募集の方にも戦略が必要である。例えば、中学校の教員にリサーチして、情報収集をするなどしてはどうか。

5. 特別活動

		自己評価		評価サイクルの検証	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者評価		
【5 特別活動】 学校行事や部活動のさらなる活性化を図るとともに、幅広く調和の取れた人材を育成する。	(全校レベル) 集団活動を通して、集団や社会の一員としてのよりよい在り方、 考え方を育成するとともに、自己管理能力や自主的、実践的な態度を身につけさせる。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A	評価サイクルの検証	年間計画の中で、それぞれの行事を可能な限りよりよいタイミングで設定する。 行事の計画・運営において生徒の依存傾向が強まりつつある中で、自主性やたくましさを育成していくような指導の工夫をした い。 形骸化しつつある行事の内容を見直していく必要がある。
	(下位組織レベル) 1) 学校行事と、部活動を充実させる。 2) 生徒会活動や各種専門委員会活動、ホームルーム、部活動が連携するとともに、それぞれの活動の活性化を図る。 3) 部活動を通して自己管理能力を高める。 4) 「富西レスキュー活動」を新設し、災害時等における対応能力を養う。	1) ①学校祭への一般来場者数 昨年より10%アップ。 ②学校祭をはじめとする学校行事の満足度80%以上。 ③部活動紹介や部活動顧問会議の内容充実を図る。 ④部活動への入部率80%以上。 2) 各種リーダー研修会を年間2回実施する。 3) 部活動部長・部員集会を年間2回実施する。 4) 「富西レスキュー活動」を1年次の1学期に実施し、大規模災害や非常事態において適切な対応や行動が取れるよう指導する。	1) ①学校祭の一般来場者は、昨年より11%増加した。 ②生徒の学校行事に対する充実度は92%であった。 ③部活動紹介、部活動顧問会議の内容は例年並みであった。 ④部活動への入部率は89%であった。 2) ホームルームリーダー研修会を6月と10月に、各種委員会を4月と10月に実施。 3) 部活動部長・部員集会を7月・9月に実施。 4) レスキュー活動を6月に実施。	(所見) 評価指標関連については概ね達成できた。 生徒と教職員が一体となって諸行事に取り組み、より一層その信頼関係を深めることができた。 各活動が社会性や人間性を育成する場に成り得た。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		1) ①学校祭を9月実施とし、一般公開する。その他、学校行事開催に際し、その意義についての事前指導を行う。また各行事終了後にアンケートを実施し検証する。 ②部活動紹介、部活動顧問会議を実施する。 2) 各種専門委員会、ホームルームリーダー研修会を実施する。 3) 部活動部長・部員集会を開催する。 4) 1年次において「富西レスキュー活動」を実施し、災害時等における対応能力を養う。	1) ①文化祭を9月5・6日、体育祭を7日に実施した。一般来場者は、文化祭に約680人、体育祭に約90人だった。また、学校祭と球技大会で事後アンケートを実施し検証した。 ②部活動顧問会議では、連絡のみならず部活動の在り方や意義についても共通理解を深めた。 2) 内容の整理を図るとともに自治的活動となるよう促した。 3) 部活動の在り方やリーダーとしての心構えについて確認指導できた。 4) 炊き出し・ロープワーク・応急処置・土のう積みの訓練を実施した。			